

毎年7月から急増!!

【ハチ刺されによる救急統計について】

例年、夏から秋にかけて、ハチ刺されによる救急搬送事案が多発します。

ハチ刺されは、ハチ毒に対するアレルギーがあると、場合によってはアナフィラキシーショックを発症し、意識障害や心停止に至るなどの恐れもあります。

これからの季節のハチ刺され事案の予防を図るため、以下のとおり過去の救急統計を取りまとめましたのでお知らせします。

※ アナフィラキシーショックとは、ハチ毒などのアレルギーを起こす物質に身体が暴露されることで、全身性のアレルギー反応が引き起こされる状態を言い、全身のじんましん、咳、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛、さらに血圧低下や呼吸困難、意識障害をきたし、場合によっては心停止に至ることもあります。

※ 統計は、郡山地方広域消防組合管内の2017年から2021年までにおけるハチ刺されによる救急搬送人員の内訳。

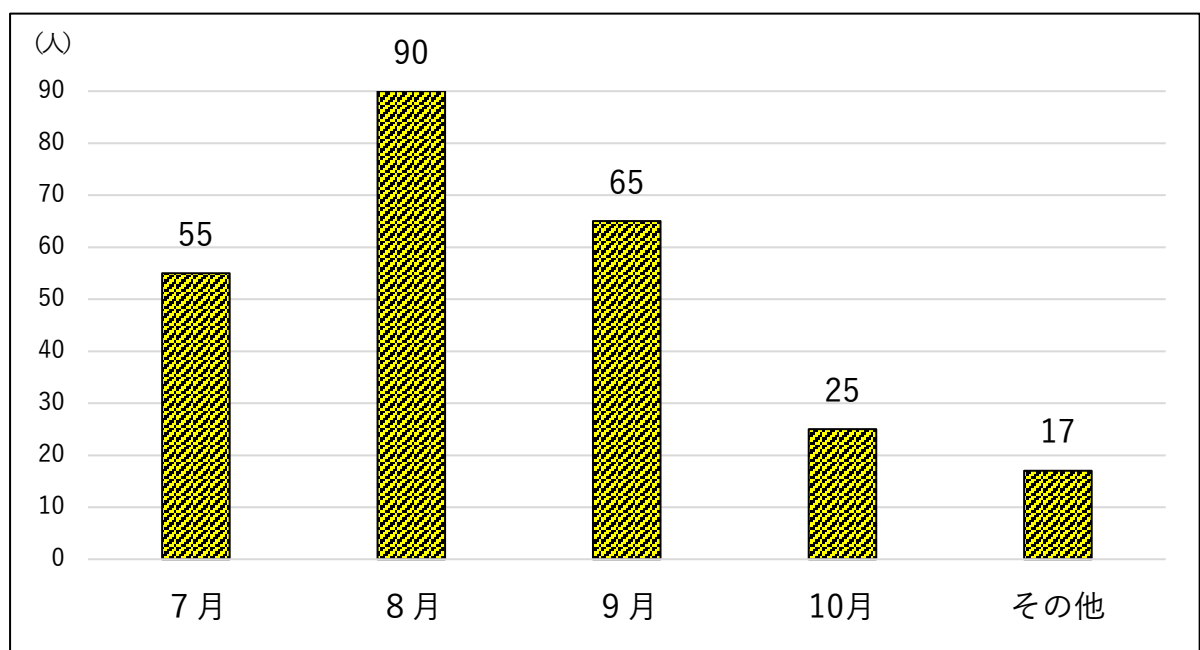
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

1 救急搬送人員

管内では過去5年間に、ハチ刺されにより252人が救急搬送されています。

特に7月から10月までの間に年間の93.3%（235人）が救急搬送されており、そのほとんどが夏から秋に集中していると言えます。

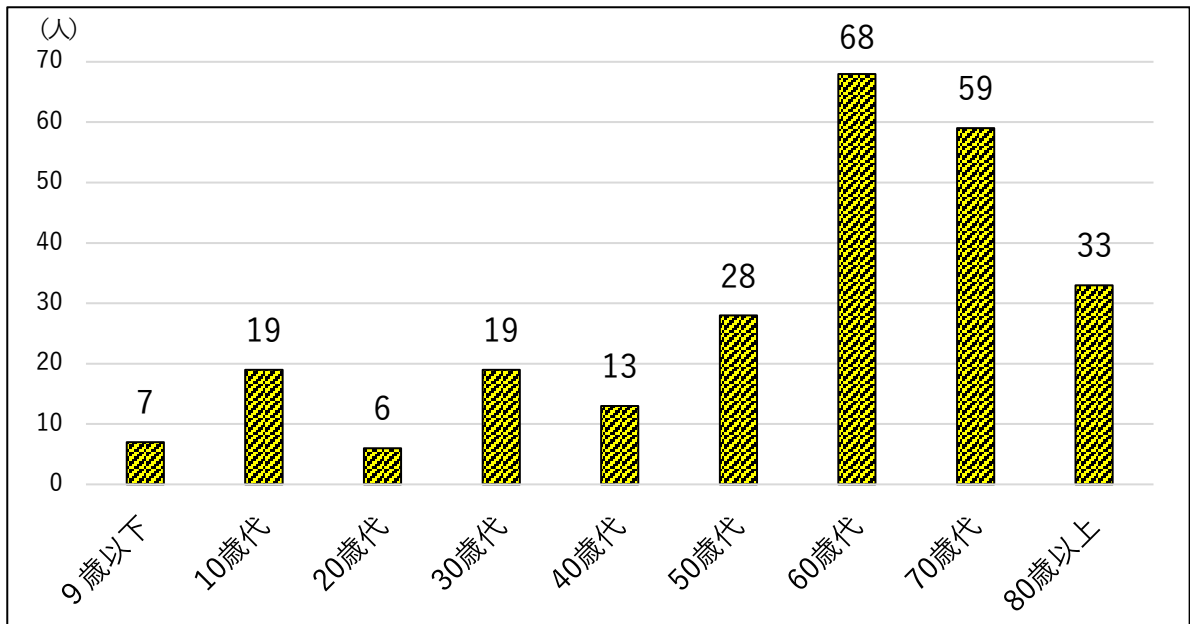
救急搬送人員を月別にみると、8月が最も多く90人（35.7%）、次いで9月が65人（25.8%）、7月が55人（21.8%）と続きます。



2 年代別の救急搬送人員

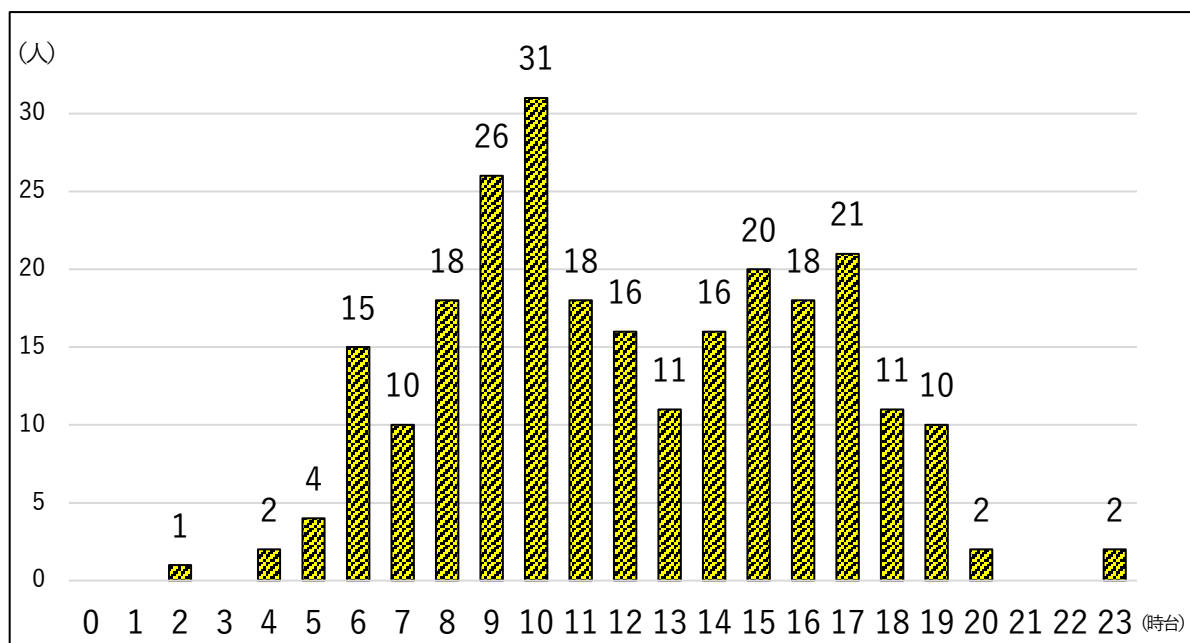
過去5年間のハチ刺されによる救急搬送人員を年代別にみると、「60歳代」が最も多く68人（27.0%）、次いで「70歳代」が59人（23.4%）、「80歳代以上」が33人（13.1%）と続きます。

50歳代以上で全体の74.6%（188人）を占めています。



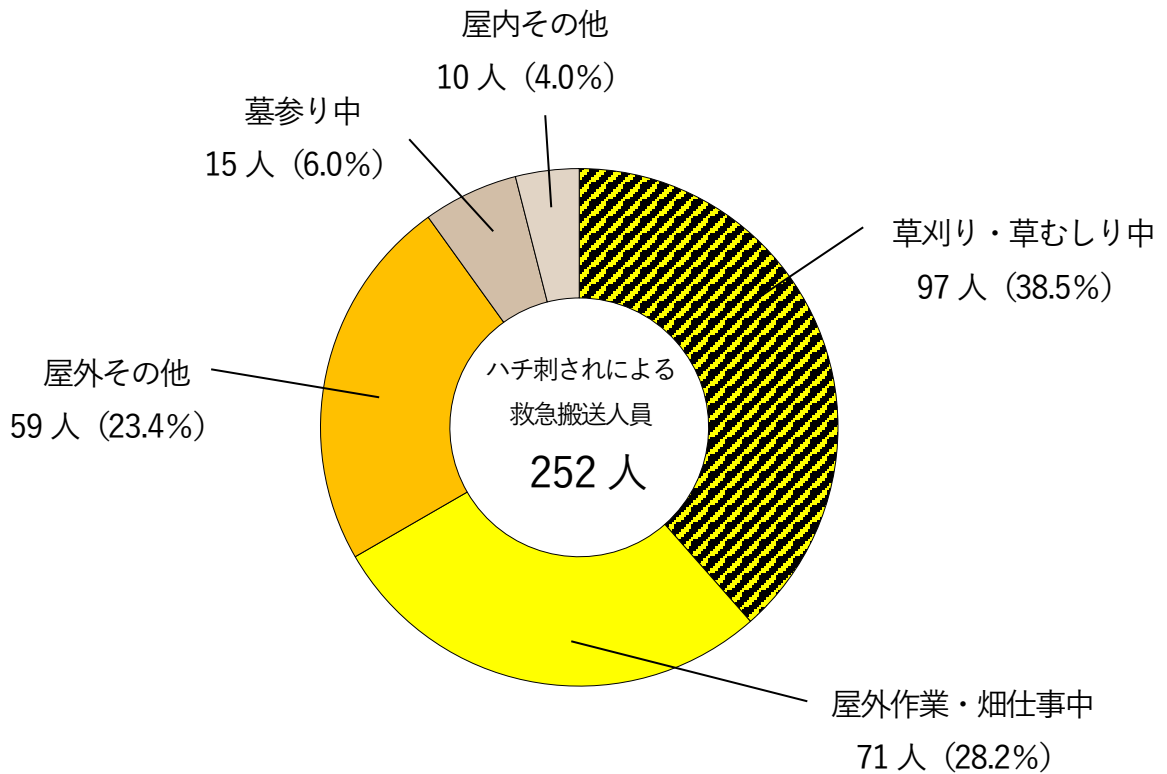
3 時間帯別の救急搬送人員

過去5年間のハチ刺されによる救急搬送人員を時間帯別にみると、「10時台」が最も多く31人（12.3%）、次いで「9時台」が26人（10.3%）、「17時台」が21人（8.3%）と続きます。



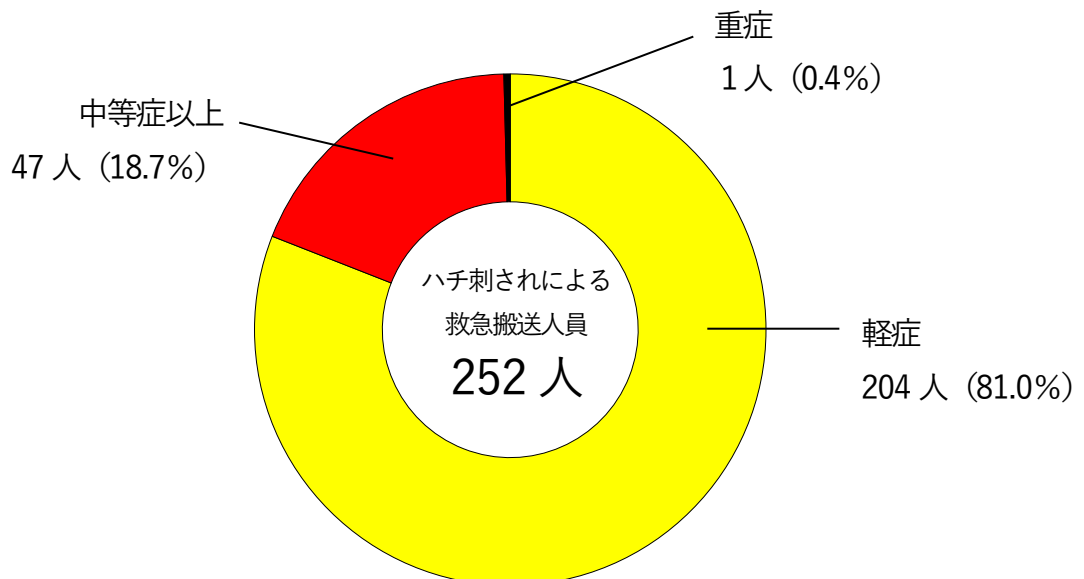
4 ハチに刺された時の行動

過去5年間のハチ刺されによる救急搬送人員をハチに刺された時の行動別にみると、「草刈り・草むしり中」が最も多く97人(38.4%)、次いで「屋外作業・畑仕事」が71人(28.2%)、「屋外その他」が59人(23.4%)と続きます。



5 初診時の傷病程度

過去5年間のハチ刺されによる救急搬送人員を傷病程度別にみると、「軽症」が204人(81.0%)、「中等症」が47人(18.7%)、「重症」が1人(0.4%)と続きます。



6 ハチに刺されないためのポイント

草刈りや畑仕事、屋外活動、野山などに出かける際は、なるべく長袖、長ズボン、帽子を着用しましょう。この場合、熱中症にも十分注意し、こまめに水分補給をしましょう。

ハチは大きな音や振動などの刺激を受けることで、興奮して攻撃性を増すとされています。

ハチを見かけた場合は、決して手で払ったり駆け出したりせず、ゆっくりとその場を離れましょう。

素人がハチの巣を駆除しようとして刺される事例も多くあることから、必ず専門業者に相談しましょう。

洗濯物などに紛れ込み屋内にハチが侵入し刺される場合があります。洗濯物を取り込む際には十分注意しましょう。ハチが屋内や車内に侵入してきた時は、窓を開けて外に出ていくのを待ちましょう。ハチは明るい方向に向かう習性があります。

7 ハチに刺された場合の処置

ハチに刺された場合は、まず傷口を流水でよく洗い流し、その後は安静にして様子を見ましょう。

息苦しさや口の渇き、冷や汗、めまい、じんましん、嘔吐、しびれ、血圧低下などの症状が現れた場合は、速やかに病院で診察を受けるか119番通報しましょう。